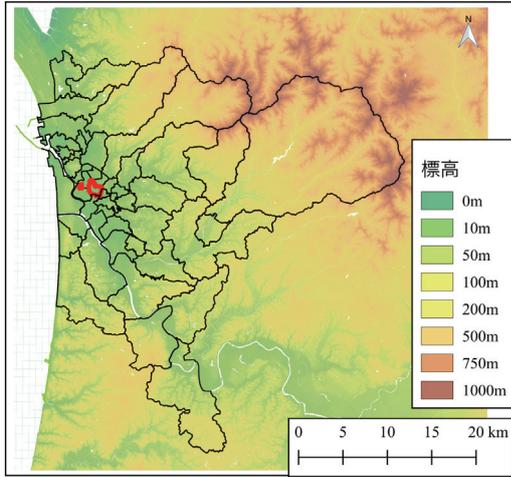


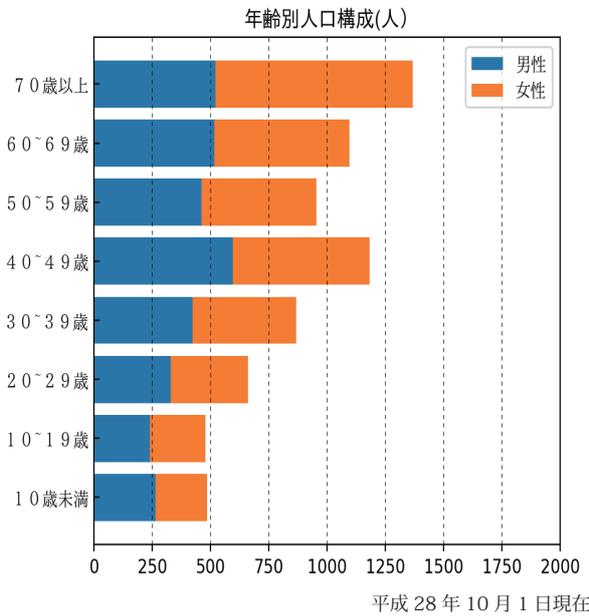
22：旭北小学校区

位置図



1 居住者の現況

人口	7,373 人
世帯数	4,086 世帯
65 歳以上人口	1,932 人
10 歳未満人口	483 人



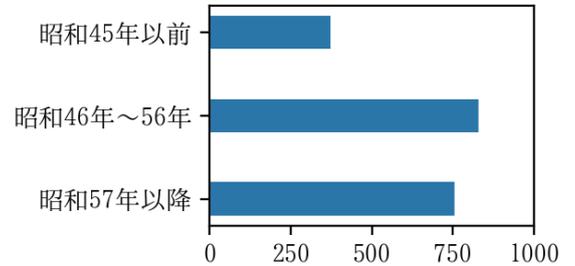
2 建物に関する指標

■ 構造別建物棟数(棟)

	棟
木造建物	1958
非木造建物	790

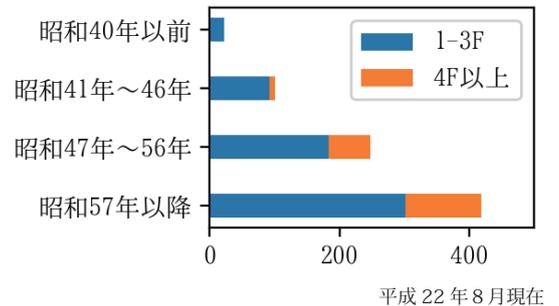
■ 建築年代別木造建物棟数(棟)

	棟
昭和57年以降	756
昭和46年～56年	830
昭和45年以前	372



■ 建築年代別非木造建物棟数(棟)

	1-3F	4F以上
昭和57年以降	302	117
昭和47年～56年	184	64
昭和41年～46年	92	9
昭和40年以前	22	0



自然的・社会的基本指標

市の中心部に位置し、秋田市役所や秋田県庁などの施設が集まっている。学校区の東側を旭川が流れており、平坦な地形となっている。地盤は軟弱で、1983年日本海中部地震の際には、一部で液状化が発生した。学校区全域が都市計画区域に含まれ、住居専用地域と近隣商業地域が多くを占めており、建物の密集度がかなり高くなっている。人口構成では、20歳未満の比率が低く40歳代の構成比率が高い。65歳以上の人口が26%で漸増傾向にある。非木造建物の占める割合が高いものの、木造建築物のうち非耐震木造建物の占める比率が高い。昭和57年以降の建物は全体の43%である。

3 自然災害に関する指標 (平成 29 年 3 月現在)

■ 洪水

指定河川	旭川	雄物川	
浸水面積 (%)	19.5	55.7	
最大浸水深 (m)	ランク 2	ランク 4	

■ 土砂災害

* 土砂災害危険箇所

種別	箇所数	主な指定箇所
急傾斜地崩壊危険箇所	0	該当箇所なし
土石流危険渓流	0	該当箇所なし
地すべり危険箇所	0	該当箇所なし
なだれ危険箇所	0	該当箇所なし

* 土砂災害警戒区域

種別	箇所数	主な指定箇所
土砂災害警戒区域	0	該当箇所なし
うち土砂災害特別警戒区域をふくむもの		

■ 地震および津波

* 地震 (どこにでも起こりうる直下の地震: M6.9)

平均震度 (計測震度)	震度 6 強 (6.03)	
震度 6 強以上となる面積 (%)	72	
液状化危険度ランク	4	
建物全壊率 (%)	7.7	

* 津波 (秋田県沖の地震で A,B,C 領域が連動した場合)

浸水面積 (%)	3.6	
最大浸水深 (m)	4.1	

4 災害時要配慮者に関する指標 (平成 29 年 3 月現在)

■ 要支援者関連施設 (収容施設のみ)

種別	施設数
高齢者支援	4
婦人幼児支援	0
障がい者等支援	8

■ 幼稚園・保育所等

種別	施設数
保育所等	12
こども園	0
幼稚園	2

■ 学童支援施設

種別	施設数
児童館等	3

■ 学校等

種別	施設数
小学校	1
中学校	1
高等学校	0
大学・短大・高専	0
養護学校等	0

5 防火・防災施設に関する指標 (平成 29 年 3 月現在)

■ 消防関連施設

消火栓数 (箇所)	111
防火水槽 (箇所)	9
消防車台数 (台)	11
消防ポンプ数 (台)	3
消防団員数 (人)	37

■ 避難所/避難場所 (別表参照)

災害種別	施設数
洪水	2
土砂災害	7
地震	7
津波	1
福祉避難所	1
津波避難ビル	1
津波警報サイレン	1

■ 救急・防災関連施設

種別	名称/箇所数
管轄消防署	秋田消防署
管轄警察署	秋田中央警察署
病院・医院数 (歯科を除く)	6
最寄りの救急告示病院	市立秋田総合病院
自主防災組織数	11

自然災害時の危険要素

雄物川の氾濫により学校区の北部 (高陽地区、大町地区) を除き全体の約 55% の範囲で浸水が想定されているほか、旭川の氾濫によっても約 20% の範囲で 1m 程度までの浸水となると想定されている。

土砂災害の危険性は指摘されていない。

学校区の東半は、西部に対し相対的に揺れにくいとされる。液状化の危険性は高い。津波では八橋南地区で 3m 未満の浸水が想定されている。その他の地区では概ね危険性は低いと見られている。

防災上の課題と対策

旭北小学校区には市役所、県庁があり、災害時には緊急車両の出入りも頻繁に行われるものと考えられ、自動車の流入規制を含め災害時の交通手段の確保に迅速な対応が求められる。

年齢別の人口構成では、30 代から 50 代の比較的若い世代の比率が高く、互いに協力することで老人をはじめとした災害時要援護者の避難もスムーズに行うことができると期待される。

学校区北部および東部では、建物の密集度が高いため、火災が発生した場合に延焼しやすいと考えられる。火災による被害を最小限に押さえるためには、出火の防止、初期消火が重要であり、これらには住民の協力が欠かせないため、平時から防災訓練等の機会を通して住民の防災意識を高め

ておく必要がある。
 官庁街であるため、昼間の流入人口もかなり多いものと推定される。このような非居住者の災害時の避難方法や避難場所、帰宅経路についても平時の防災訓練等を通して確認しておく必要がある。

■ 避難所・避難場所

施設	指定避難所	緊急避難場所					収容人員
		災害の種類（○のみ利用可）					
		洪水	がけ崩れ/ 土石流	地震	津波	大規模火災	
中央市民サービスセンター (多目的ホール)	○	○	○	○	x	x	125人
旭北小学校グラウンド	x	x	○	○	x	x	3,200人
旭北小学校(体育館)	○	x	○	○	x	x	364人
山王中学校グラウンド	x	x	○	○	x	x	4,545人
山王中学校(体育館)	○	x	○	○	x	x	653人
旭北地区 コミュニティセンター	○	○	○	○	x	x	111人
山王第一街区公園	x	x	○	○	x	x	3,500人
秋田県J Aビル(3階から 10階までの廊下、3階から 9階までのエレベーター ホールおよび屋上)	x	x	x	x	○	x	1,500人

福祉避難所

施設	所在地	電話番号
秋田聖徳会養護老人ホーム	旭南一丁目5-6	018-862-3267

津波避難ビル

施設	所在地	利用可能範囲	収容人員
秋田県J Aビル	八橋南二丁目10番16号	<ul style="list-style-type: none"> ・ 3階から10階までの廊下 ・ 3階から9階までのエレベーターホール ・ 屋上 	1,500人

津波警報サイレン

施設	所在地
秋田市役所	山王一丁目1番1号

